

総務省国立研究開発法人審議会 宇宙航空研究開発機構部会（第29回）

1 日 時 令和6年11月25日（月）13時00分～14時30分

2 場 所 WEB会議にて開催

3 出席者

（1）委員（敬称略）

梅比良委員（部会長）、藤野委員（以上2名）

（2）専門委員（敬称略）

入澤専門委員、生越専門委員、小塚専門委員、小紫専門委員、篠永専門委員、
末松専門委員、藤本専門委員、矢入専門委員（以上8名）

（3）国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

三保経営企画部長、笠原経営企画部企画課長

（4）総務省

近藤大臣官房審議官（国際技術、サイバーセキュリティ担当）、

扇宇宙通信政策課長、上野宇宙通信政策課衛星開発推進官、菅野宇宙通信政策課専門職

4 議 題

（1）国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の第5期中長期目標（案）について

（2）その他

開 会

【梅比良部会長】 それでは、定刻になりましたので、ただいまから総務省の国立研究開発法人審議会 J A X A 部会の第 29 回を開催させていただきたいと思います。

本日はお忙しい中、御参集いただきまして、ありがとうございます。

本日は御案内のとおり、J A X A の第 5 期中長期目標（案）に关しましての審議を行います。今回は機微な情報を含む質疑応答が生じる可能性があることから、総務省国立研究開発法人審議会議事規則第 7 第 1 項の規定に基づきまして、非公開の会議とさせていただきます。

初めに本日の会議の出席につきましてですが、委員 3 名中 2 名が出席して、定足数を満たしていることを報告させていただきます。

それでは、事務局から配布資料につきまして説明をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

【菅野専門職】 事務局は宇宙通信政策課が務めさせていただきます。本日はよろしくお願ひいたします。

今回の会議自体は非公開ということになっておりますが、議事録は公開の予定のため、録音、録画等させていただくこととなりますので、よろしくお願ひいたします。また、効率的な審議にあたり、構成員の皆様からの質問、事実確認に対応できるように、J A X A の皆様にも御出席いただいておりますので、あらかじめ御承知いただければと思います。

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。資料につきまして、事前にメールで配付しております議事次第、資料 29-1 から 3、参考資料 29-1 から 9 となっております。資料の不足等がございましたら、事務局までお声がけ願ひたいと思います。

また、ウェブ会議の接続が切れた場合、お手数ですが再ログインをお願ひいたします。緊急時には事前にお伝えしている電話番号まで御連絡をお願ひいたします。

以上でございます。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございました。それでは、議事に入る前に、今回の J A X A の第 5 期中長期目標策定に向けた検討の進め方等につきまして、事務局から御説明をいただきたいと思ひます。それでは、事務局から説明お願ひいたします。

【上野衛星開発推進官】 参考資料 29-1 を御覧いただければと思ひます。今般御審議

いただく J A X A の第 5 期中長期目標（案）につきまして、審議の進め方を御説明させていただきます。

1 ポツ目を御覧いただければと思いますが、J A X A の所管府省におきまして、J A X A と意思疎通を図りつつ目標の原案を作成しております。

2 ポツ目に移りまして、原案については 11 月から 12 月にかけて、各府省の部会において御審議いただき、意見を取りまとめさせていただきたいと思っております。総務省の J A X A 部会につきましては、本日と 12 月 23 日の 2 回を予定させていただいております。次回の J A X A 部会では、本日いただく御意見、それから各府省の部会で出た意見を踏まえまして、各府省にてリバイスしたものを提示させていただく予定です。

続いて 3 ポツ目です。各府省の部会で御審議いただいた後に、親会である国研審で御審議いただきます。総務省の国研審は 1 月 23 日に予定させていただいており、部会からの意見の説明をさせていただいた後に、国研審としての案に対する意見の決定をさせていただく予定でございます。

最後、4 ポツ目でございますが、各府省の審議会の意見を踏まえまして、来年 2 月末までに決定、それから法人に指示する流れとなっております。

審議の進め方についての説明は以上です。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございました。ただいまの事務局からの説明に対しまして、委員の皆様から御質問、御意見等ございましたら、よろしく申し上げます。よろしいでしょうか。

議 題

(1) 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の第5期中長期目標（案）について

【梅比良部会長】 それでは、お手元の議事次第に従いまして、議事を進めてまいりたいと思います。本日は国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の第5期中長期目標（案）についてのみでございます。それでは、事務局から説明をお願いいたします。

【上野衛星開発推進官】 資料29-1、2、3、それから参考資料29-2に基づき、御説明させていただきます。

まず資料の説明ですが、資料29-1が第5期中期目標（案）本体、資料29-2がJAXAに係る政策体系図（案）、それから資料29-3が評価軸及び関連資料（案）となっており、後者の2点につきましては目標に添付する資料になります。

まず、資料29-2を御覧いただければと思います。こちらが、国の政策体系におきましてJAXA業務がどのように位置づけられているかを示したものになります。こちらが政策体系図（案）となっております。まず左上でございますが、宇宙に関する政府方針として宇宙基本法に規定されている宇宙基本計画がございます。最新の宇宙基本計画は令和5年6月に閣議決定されておきまして、この中において我が国の宇宙政策の目標としてここに掲げている4点、「宇宙安全保障の確保」、「国土強靱化・地球規模課題への対応とイノベーションの実現」、「宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造」、それから「宇宙活動を支える総合的基盤の強化」、この4項目が目標として掲げられております。

それから右上でございますが、航空分野では、科学技術・イノベーション基本法に規定されている科学技術・イノベーション計画に対する「分野別研究開発プラン」におきまして、重点的に実施すべき研究開発の取組等が定められております。また、これらの宇宙基本計画、分野別研究開発プランに加えまして、資料の真ん中の水色枠のところでございますが、「機構を取り巻く環境の変化」ということでここに掲げているような変化がございますので、それらも踏まえてJAXAは業務を進めていくこととしております。

続きまして、参考資料29-2を御覧いただければと思います。こちらが、第5期中長期目標（案）の構成となっております。左側は現行第4期の項立てになっておきまして、右側

が第5期の項立て案となっております。右下に赤字で記載しておりますが、赤字が統合・大きくくり化をする項目、青字が削除する項目、それから下線が項目名の修正、灰色が評価単位となっております。上の囲いのところでございますが、JAXAを取り巻く環境変化等を踏まえまして、第5期の目標として項目立てをしております。それから、宇宙基本計画も踏まえつつ細分化していた項目を大きくくり化して、評価単位を28項目から19項目としております。

それでは、資料29-1を御覧いただければと思います。こちらが次期中長期目標の原案になります。投影資料につきましては説明部分にマーカーをしておりますので、参考いただければと思います。まず、本体の構成でございますが、2ページ目、3ページ目が目次となっております。4ページ目から本文が始まります。以降、ざっとなぞっていただければと思っております。まず、「I. 政策体系における法人の位置付け及び役割」について記載しております。4ページ目から5ページ目にかけてが、先ほど説明させていただきました政策体系に関して記載しております。5ページ目から8ページ目にかけて、宇宙基本計画に掲げられた4つの目標ごとに目標を達成するためのJAXAの役割を記載しております。

「1.1. 宇宙安全保障の確保」を御覧ください。こちらについては最終パラグラフのところで、情報収集、通信、測位等のための宇宙システムの高度化及び宇宙空間の状況把握やスペースデブリの脅威・リスクへの対処に係る研究開発成果の創出等を通じまして、我が国の安全保障能力の強化、宇宙空間の安全かつ安定的な利用の確保に民間を含めた総合力を活用し貢献するとともに、我が国の平和と繁栄、国民の安全・安心の確保に寄与し、誰もが不安なく、自分らしく生きられる社会環境の実現に貢献することが求められているとしております。

続いて「1.2. 国土強靱化・地球規模課題への対応とイノベーションの実現」におきましては、こちらも最終パラグラフで、地球観測衛星、通信、測位等の各種宇宙システムの研究開発成果の創出・利活用の促進を通じて防災・減災、国土強靱化や気候変動を含めた地球規模課題の解決に貢献するとともに、衛星開発・利用基盤の拡充に係る各種取組の推進を通じて、民間市場分野での幅広いイノベーションの創出及び我が国の宇宙産業エコシステムのさらなる発展に貢献することが求められているとしております。

続いて「1.3. 宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造」におきましては、こちらも最終パラグラフで、宇宙物理学分野においては、宇宙の起源と進化の理解や宇宙における生命の可能性の探求を、太陽系科学分野では、太陽系と生命の誕生・進化の解明を目的とし、

科学的知見を蓄積することで、我が国として人類共通の知の創出と宇宙空間における人類の活動領域の拡大へ貢献することが求められるとしております。また、地球低軌道におきましては、民間利用及び産業振興を通じて新たな市場を構築しつつ民間参画・商業活動を段階的に発展させ、月面においては新たな市場の構築を見据えつつ、持続的な有人活動に向けた基盤を構築することで、我が国として人類の持続的な活動領域の拡大に貢献すること、さらにはこれらの活動を通じ、国際プレゼンスを確保するとともに、広く国民への夢や希望、誇りを与え、将来の地球低軌道利用、月面・火星探査活動の推進に貢献することが求められているとしております。

「1.4.の宇宙活動を支える総合的基盤の強化」については、こちらについても最終パラグラフにおきまして、我が国の産学官・国内外における技術開発・実証、人材、技術情報等における結節点として、自らの研究開発能力を強化し、先端的な研究開発に挑戦し続けるとともに、国内の様々なプレイヤーへの資金供給等を通じた支援や国際宇宙協力の強化に資する活動を行っていくことで、我が国全体としての研究開発成果の最大化、宇宙産業エコシステムの発展、国際的なプレゼンスの維持向上等に貢献することが期待されており、また、これらの活動を通じて蓄積された英知と成果を社会に還元、定着させることを通じて、国民の豊かで安全な暮らしの実現に貢献することが求められているとしております。

9ページ目の「Ⅱ.中長期目標の期間」を御覧いただければと思います。中長期目標の期間につきましては、既に前回の部会でも御議論させていただきましたとおり、7年間とさせていただきます。

続いて、「Ⅲ.研究開発成果の最大化その他業務の質の向上に関する事項」に移らせていただきます。この章ではI項で示しました政策体系における機構の位置づけ、それから役割を踏まえまして、各項目の具体的目標を示しております。

9ページ目から15ページ目にかけてが、「1.宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクト及び研究開発の実施」についての記載になります。まず、「1.1.宇宙安全保障への貢献」についてでございます。宇宙空間の安全保障上の重要性が非常に拡大しているということ踏まえまして、第4期の記述に引き続き情報収集衛星、それから準天頂衛星システム、海洋状況把握等々について記載しております。また、新たに追加指定している記載としましては、10ページ目の上段になりますが、宇宙状況把握（SSA）について、スペースデブリの脅威・リスクへの対処のための研究開発等を通じまして、政府のSSA体制の構築等に貢献する、宇宙領域把握（SDA）体制の構築に関する事業について、政府から受託した場

合には必要な体制を構築し、実施するとしております。

続いて「1.2.地球観測・通信・測位」についてでございます。地球観測・通信・測位の各分野におきましては、研究開発及び衛星データの利用促進・利用研究に係る成果を創出すると記載しております。特に衛星データにつきましては、衛星データ利用技術の社会実装を進めつつ、デジタル分野・グリーン分野等の異分野の成長市場との融合等により、新たな価値を提供するイノベーションの創出に貢献するとしております。また、地球規模課題への対応やイノベーション創出に資する取組の中で、特に機構として注力すべきこととして、これまで以上にアウトプット・アウトカムに立脚した戦略的アプローチを挙げるなど、社会的実装面の強化を意識した記載を盛り込んでおります。

衛星通信につきましては、「フルデジタル衛星通信に係る成果を創出する」や「データ伝送の秘匿性向上も念頭に衛星光通信技術の研究開発及び実証を行い、大容量のデータ伝送を実現する」としております。「なお」以下でございますが、「研究開発を進めるにあたっては、NICTをはじめとする官民関係機関との適切な連携・役割分担を図る」としております。

続いて「1.3.宇宙科学・探査」でございます。宇宙機関としての国際的な立場向上を念頭に置いた記載が増えておりまして、例えば3行目の「世界的に不可欠な宇宙機関としての立場を維持・向上」であったり、下から5行目になりますが、「欧米主体の科学・探査ミッションにおいても機構の貢献が不可欠とされるような、国際的に確固たる立場を維持・向上する」などと記載しております。

また、12ページの1行目でございますが、「広く国民の理解と支持を獲得するため科学的成果を含めインパクトのある成果を広く公表し、効果的に広報・普及に努めるとともに、産業振興のために民間事業者との連携等により積極的に社会への成果の還元を行う」としてしております。

続いて「1.4.地球低軌道・月面における持続的な有人活動」についてでございます。メーカー部分ですが、「科学コミュニティ等との連携を維持・発展、地上で獲得してきた優れた技術を活用し、スタートアップや非宇宙産業を含む多様な民間事業者や異分野の研究者の参画を促進し、また将来の地球低軌道及び月探査の有人宇宙活動を担う日本人宇宙飛行士を育成する」と、ISSの活用等を含め記載しております。

続いて「1.5.宇宙輸送」の部分でございます。益々多様化する宇宙開発利用の将来像の実現に向けて、我が国のロケット技術のさらなる発展を目指すとしております。そのほか、

「研究開発体制を構築」であったり、「開発リスクを十分に評価し」等々を追加するなど、マネジメント面の強化も念頭に、引き続き第4期の内容をアップデートしております。

続いて「1.6. 新たな価値を実現する研究開発及び分野横断的に開発・運用を支える取組」でございます。「(1) 新たな価値を実現する研究開発」におきましては、2段目でございますが、「政府における宇宙交通管理・スペースデブリ対策に係る国際的なルール形成活動を支援することで、本分野における我が国の国際的に主体的な影響力の確保に貢献する」であったり、「加えて」以降でございますが、「新たな産業の創出が期待される軌道上サービスの分野について、国際的な市場形成の動向を踏まえつつ、民間事業者が主体となって進める取組と連携しながら、関連する研究開発成果を創出する」としております。

また、「(2) 分野横断的に開発・運用を支える取組」としましては、15ページ目でございますが、環境試験技術、それから追跡運用技術、周波数管理について記載しております。周波数管理については、宇宙分野での電波需要増大を踏まえまして、「周波数管理について、国内における規則策定の検討への参画や調整を通じ、必要となる周波数帯の割当ての確保・維持に貢献するとともに、周波数利用の規則に基づき無線局運用に係る許認可を確実に取得し、各ミッションの確実な遂行に貢献する。また、関係省庁と連携し、アルテミス計画の実施等に必要となる月における周波数帯の確保に向け、国際会合に参加し貢献する」というような形で、第4期に比べまして記載を強化しております。

続いて、「2. 官民共創での宇宙利用拡大及び産業振興に資する研究開発等の取組」についてでございます。各国とも宇宙開発は官主導から官民主導へと移行しつつあるということとして、1行目、「世界的な商業宇宙活動の加速や宇宙産業の構造変革が進んでいることを踏まえ」まして、3行目に記載がございますが、「機構が各プロジェクト等の実施を通じて獲得してきた研究開発能力を活用し、機構及び民間事業者等の双方に裨益する共創型の研究開発等を推進・支援する」としております。

「3. 宇宙戦略基金の活用」についてでございます。宇宙戦略基金が創設されまして、JAXAは産学官・国内外における技術開発・実証、人材、技術情報等における結節点となることが求められております。政府方針に基づきまして、JAXAがミッションへの実装や商業化・自立化を実現し、宇宙関連市場の拡大、宇宙を利用した地球規模・社会課題解決の貢献、宇宙における知の探求活動の深化・基盤技術力の強化に対し中心的に貢献するとしております。

続いて「5. 宇宙航空政策の目標達成を支えるための取組」に移ります。16ページ、まず

「5.1. システムズエンジニアリング／プロジェクトマネジメントの推進及び安全・信頼性の推進」でございます。この項目は全体的に第4期に比べ内容が強化されております。

1行目でございます「プロジェクト活動の計画的な遂行とミッション成果の最大化に貢献する」ため、第4期中長期期間に機構が行ったマネジメント改革に係る検討の成果も留意した上で、「制度・環境の整備」、それから「情報・知見の適切な提供、及び人材育成等を実施する」としております。

続いて「5.2. 国際協力・多様なプレーヤー間のグローバルな共創の推進及び調査分析」でございます。「米欧等の宇宙先進国との各プロジェクト・プログラム等を通じた国際協力の円滑な推進に貢献」等を記載しております。

「5.3. 社会の理解増進及び次世代を担う人材育成の貢献」については、「多様化する社会に対応」、それから「産学官含む様々なプレイヤーとの連携」を追加する等、第4期の目標をアップデートしております。

続いて「5.4. 情報システムの活用と情報セキュリティの確保」についてでございます。

「(2) 情報セキュリティの確保」の記載を全体的に強化しております。冒頭、「地政学的なリスクを含め、サイバー空間における国内外からの脅威が高度化・多様化している現状を踏まえて、不断の検証のもと臨機応変に情報セキュリティ対策を強化・改善していくことを目指す」としており、その後に具体的な取組を記載しております。

「5.5. 施設及び設備に関する事項」につきましては、下から2行目でございますが、「持続可能なインフラマネジメントを実現する」であったり、「経営基盤である施設及び設備について包括的なマネジメントを推進する」としております。

19ページ目の「IV. 業務運営の改善・効率化に関する事項」を御覧いただければと思います。「(1) 社会に対するアウトカムの創出に向けた組織の準備」につきましては、全体的にこちらもアップデートしております。「基礎・基盤的な研究開発及びプロジェクトの実行等を通じて社会に対するアウトカムを創出するため、社会情勢の変化等を踏まえつつ、人的資源、先端・基盤技術力や施設・整備を含む機構の総合力向上と中核機関としての機能強化を図り、産学官の結節点として社会に対して新たな提案を積極的に行い、社会を科学・技術で先導し新たな価値を創造する組織への変革を実現する」としております。

「(2) 効果的かつ合理的な業務運営の推進」におきましては、1行目、「宇宙開発等の中核機関として求められる役割を果たし、機構が有する能力を最大限発揮する観点から、効果的かつ合理的な業務運営を推進する」とし、その後に具体的な取組を記載しております。

「(3) 人件費の適正化」においては、冒頭、「高度な職務を担当するプロフェッショナルにふさわしい処遇の充実を図る」であったり、19 ページの下から2行目でございますが、「宇宙開発の基盤となる人的資源の拡充・強化を図るため、機構の人員拡充に着実に取り組む」としております。

20 ページになりますが、「V. 財務内容の改善に関する事項」です。こちらについては、第4期から大きな変更はございません。「運営費交付金等の債務残高を勘案しつつ、予算を効率的に執行する」としております。

最後に「VI. その他業務運営に関する重要事項」を御覧いただければと思います。「1. 内部統制」でございますが、「機構の研究課題における不正行為及び研究費の不正使用を未然に防止する効果的な取組を推進する」であったり、「研究セキュリティ及び研究インテグリティに関し、政府方針を踏まえ、国際的に信頼性のある研究開発環境を整備する」としております。「なお」以降でございますが、「第4期中長期期間に機構が行ったマネジメント改革に係る検討で示された結果を踏まえ、引き続き制度の改善、役職員の意識改革に取り組む」としております。

「2. 人事に関する事項」については、第4期の内容を全体的にアップデートしております。「高い専門性、技術力・研究開発力、リーダーシップを有する優秀かつ多様な人材を確保・育成するとともに、職員一人ひとりの価値やモチベーションを最大限に高めることにより、組織をより強く進化させるための取組を実現する」としております。

資料29-1の説明は以上でございます。

続いて、資料29-3を御覧いただければと思います。説明が長くなって恐縮でございますが、もう一つ資料を説明させてください。こちらが、中長期目標を評価するための評価軸及び関連指標をまとめたものになります。中長期目標の項目ごとに評価軸、それから評価軸と関連する「評価指標」と「モニタリング指標」を設定しております。「評価指標」は、「評価や評定の基準として扱う指標」、それから「モニタリング指標」は、「正確な事実を把握し適正・厳正な評価にするために必要な指標」というのが定義となっております。

例として、「1. 1. 宇宙安全保障への貢献」で具体的に御覧いただければと思います。評価軸といたしまして「我が国の宇宙安全保障の確保に貢献する研究開発成果が創出されているか。また、そのためのマネジメントは適切に行われているか。政府機関からの受託事業を請けた場合は着実に業務が進められているか」を設定しております。評価指標としては「中長期計画及び年度計画で設定した研究開発課題・プロジェクトの成果」、それから「中

長期計画及び年度計画で設定した研究開発課題・プロジェクトの進捗に係るマネジメントの状況」、例えば事前検討であったり予算・コスト・スケジュールを含む進捗管理等の状況などを設定しております。モニタリング指標としては、「本項目におけるプロジェクトの総数及び、このうち当該年度に予算またはスケジュールに係る変更を行ったプロジェクトの件数」などを設定しております。

それでは、表の一番左側の列の、中長期目標の項目単位で説明させていただければと思います。まず、「1. 宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクト及び研究開発の実施」についてでございます。先ほど御説明させていただきましたとおり、第5期では研究開発課題やプロジェクトを大きくくりしておりまして、その単位で評価軸等を設定しております。大きくくりしているため差分を簡単に説明するのはなかなか難しい状況でございますが、現行の第4期では政策体系の項目ごとに評価軸等を設定しているところ、第5期ではより研究開発課題やプロジェクトに特化した指標を設定しております。

まず、「1. 1. 宇宙安全保障への貢献」で申し上げますと、例えばモニタリング指標のところを御覧いただければと思いますが、「宇宙領域における脅威事象の回避への貢献状況」、例として「スペースデブリの衝突回避制御回数等」を設定しております。

続いて「1. 2. 地球観測・通信・測位」で申し上げますと、マーカー部分でございますが、地球観測分野に関する追加的指標として、「国内外の関係機関等との連携・協力による防災・減災等の国土強靱化や気候変動を含む地球規模課題解決の貢献にかかる成果の創出状況」を設定しております。こちらにつきましては、第4期では外部へのデータ提供の状況というような一般的な形で設定しておりましたが、第5期ではプロジェクトごとに評価軸等を設定することにすることで、より具体的な指標としております。

「1. 4. 地球低軌道・月面における持続的な有人活動」での、こちらに特化した指標としましては、評価指標で「国際的な枠組み及び規範やルールの整備へ参画状況」を設定しております。また、モニタリング指標として、「国際的ベンチマークに照らした地球低軌道の宇宙環境を用いた研究開発等の成果」を設定しております。第4期では「国際的ベンチマークに照らした研究開発の成果」でしたので、より具体的な仕様となっております。

「1. 5. 宇宙輸送」を御覧ください。こちらでは、「基幹ロケットプロジェクト目標の達成状況」、「宇宙基本計画工程表における基幹ロケットによる打ち上げ計画の達成状況」などを設定しております。

次に、「2. 官民共創での宇宙利用拡大及び産業振興に資する研究開発等の取組」について

でございます。こちらについては新規の項目になります。先ほど御説明させていただきましたとおり、これからプロジェクトとして発展させていくべき研究開発を官民共創していこうといった趣旨が含まれている項目となるため、そのような観点で指標を設定しております。評価指標としては、「民間事業者等との共創活動や実証機会等を通じて創出された成果」、モニタリング指標としては、「民間事業者や大学等との共創・支援の状況」、「機構のプロジェクト等への共創活動の成果の活用の状況」などを設定しております。

続いて、「3. 宇宙戦略基金の活用」についてでございます。こちらも新規の項目になります。支援件数のみならず質の面でも適切な支援を行っていることが確認できるよう、留意しております。例えば、モニタリング指標として「当該年度までに技術開発が当初の計画どおり、またはそれを超えて進捗している課題数の割合」であったり、「当該年度までに実施したステージゲート評価及び事後評価において目標を達成した割合」などを設定しております。

「5. 宇宙航空政策の目標達成を支えるための取組」についてでございます。「5. 1. システムズエンジニアリング・プロジェクトマネジメントの推進及び安全・信頼性の確保」の部分でございますが、評価指標としては、「機構全体のシステムズエンジニアリング・プロジェクトマネジメント能力の維持・向上に係る取組の成果」、「安全・信頼性に関する継続的な技術基準の維持・拡充及び安全・信頼性技術の研究開発の成果」を設定しております。

「5. 4. 情報セキュリティの活用と情報セキュリティの確保」に進んでいただければと思います。第4期から項目名の変更はございませんが、本文同様に見直し内容等を踏まえまして、内容は全てアップデートしております。評価軸は、「サイバー空間における国内外からの脅威が高度化・多様化している現状を踏まえて、不断の検証のもと臨機応変に情報セキュリティ対策・体制を強化・改善しているか」。評価指標といたしまして、「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準」に基づき、機構において実施する年度自己点検結果において「要改善」とされた点検結果数、それから「第三者に委託して毎年度実施するセキュリティ評価において、影響評価が「重大」と評価された指摘事項数」など、それからモニタリング指標といたしましては、「サイバーセキュリティ研修の受講率」、「サイバーセキュリティ対策に従事する要員のスキルの自己評価平均値」など、具体的な指標を設定しております。

説明が長くなって恐縮ですが、説明は以上でございます。

【梅比良部会長】 どうも、詳細な説明をありがとうございました。それでは、委員、専

門委員の皆様から、ただいま説明があった3つの資料、資料 29-1 から 3 に対しまして、御質問、御意見をいただければと思います。また、JAXAに対する事実確認等がありましたら併せてお願いできればと思います。それでは、挙手ボタンか、あるいは直接発言していただいても構いません。よろしくお願いいたします。

【藤野委員】 東洋大の藤野です。よろしいでしょうか。

【梅比良部会長】 藤野委員、よろしくお願いいたします。

【藤野委員】 参考資料 29-2 でございますけれども、第5期中長期計画目標の案の構成というところで、これまで独立してありました要は小規模な研究開発の部分、新たな価値を実現する宇宙産業基盤・科学技術基盤の維持・強化というところが1.6に再編されましたけれども、新しい1.1から1.5までのところは非常に大きなプロジェクトをやっているところございまして、1.6というのは逆に分野横断的な、あるいはかなり小規模な研究開発をしているところだと思うのですけれども、この部分について、非常にそういう意味ではそこに置くには据わりが悪いような気がいたしますけれども、評価も結構難しいような気もいたしますし、この部分をどういう理由でここに置いたかという、そういうところは逆にJAXAさんあたりから説明いただくことは可能なんでしょうか。

【梅比良部会長】 それでは、これはいかがいたしましょうか。事務局さんからまず御説明いただいて、もし追加の御意見があるのでしたらJAXAからもお願いできればと思いますが。

【上野衛星開発推進官】 まず1.6の部分についてはまだ本当に萌芽的というか、例えば軌道上サービスがここに含まれるのですが、まだJAXAのプロジェクトとしても完全にプロジェクト化されていないものもここには含まれておりまして、先生の御指摘のとおり、ほかの1.1から1.5に比べて完全に立ち上がってないものも含めてここには入っております。JAXA側から少し補足いただけませんかでしょうか。

【梅比良部会長】 もしJAXAさんから補足の御説明がありましたら、よろしくお願いいたします。

【JAXA（三保）】 JAXA経営企画部、三保でございます。JAXA側からといたしますか、くくりをどうするかというところは全体の御方針にもよるかと思いますが、JAXAの立場からコメントさせていただくといたしますと、1.5までの項目の中にもそれぞれの分野が分かれておりますけれども、大きなプロジェクトになっているものからその前段にあるようなある種の細々とした活動まで含めた総体としてのプログラムとして、1.1か

ら1.5の中も記載されておりますので、1.6が今事務局の方々からもおっしゃっていたきましたようなプロジェクトに至る前の少し萌芽的なものも含めると、あるいは1.6の(2)に示されておりますような分野横断的な部分といったような、ある種少し細かいものを集合体といったようなものも、そんなに極端に考え方、くくり方が変わるものではないと思っております。

ただ1点だけ違うのは、1.5までのように大型のプロジェクトのようなものは1.6の中には今は見えない形になっておりますけれども、1.1から1.5が大型のプロジェクトだけで構成されているというわけではないということからすると、極端に違うものが1.5までと1.6で並んでいるという認識は、我々にはございません。ただ、先生方がおっしゃられるように、まとめた形でどう御評価をいただくかというのは別の観点からも御議論いただくものかとは思っております。JAXAからは以上でございます。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。藤野先生、よろしいですか。

【藤野委員】 分かりました。1.6のところに関しましては、そういう意味ではどういう評価をしようかということは毎年、結構難しかったのを覚えておまして、そういう意味ではプロジェクトに至る前のところをきちんとネタ的なものを評価していくという、そういう形にならざるを得ないかと思っております。ありがとうございました。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。私もここは覚えているんですけども、いろいろなものが入っているのでどういう方針でやっているか分かりにくいところもあって、ぜひ、評価指標とかモニタリング指標みたいなのがほかのところと違ってくるので、工夫いただければと思います。

ほかにもございますでしょうか。末松先生、お願いします。

【末松専門委員】 末松です。最初、まず宇宙戦略基金の話なんですけれども、5ページ、一番最後のページで、JAXAさんの働きとして中心的に貢献するという文章で終わっているんですが、これはどのような評価をすればいいのかよく分からない文章だと思って、具体的に何をすればJAXAさんとして評価がされるのかというところが分かりにくい。難しいのかもしれないんですけども、どんなふうにお考えでしょうか。

【梅比良部会長】 これはまず事務局、総務省さんから改めて御説明いただければと思いますが、その後、JAXAさんからどういうふうに進めることをお考えなのか少し御意見をいただければと思います。事務局さんからお願いできますか。

【上野衛星開発推進官】 御質問ありがとうございます。宇宙戦略基金の活用事業について

ては、政府が方針を示しまして、JAXAのほうでファンディングエージェンシーとしての機能を果たしていただくということで役割分担しております。JAXAはプレーヤーではなくて、民間企業や大学等のプレーヤーの技術開発を支援するということになっています。

どのように評価をするかということについては、評価指標のところをまた御覧いただければと思うのですが、資料 29-3 の 5 ページ目でございます。評価指標として置いているのが、まず宇宙戦略基金実施方針に基づき公募・選定した民間事業者・大学等における技術開発の成果、それから技術開発の進捗に係るマネジメントの状況ということで、モニタリング指標としては進捗している課題数の割合であったり、ステージゲート評価及び事後評価において目標を達成した割合というのが、各府省で考えた案になっております。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。それではJAXAさん、もし御意見、コメントがございましたら、お願いできればと思います。

【JAXA(三保)】 JAXAでございます。今御説明頂戴したとおりでございますが、資料の 29-3 の評価軸のところに書かれておりますとおり、選定された民間事業者さん、あるいは大学さんが技術開発の実際の実務をなされますので、そちらの活動が円滑に進むように、目標達成できるように、JAXAとしては貢献をさせていただくというスタンスかと思っております。ファンディングエージェンシーとしてという新しい役割のもと、JAXAの中でも経験・知見を有するエンジニアがそれぞれの案件に対して、技術的な観点からになりますけれども、サポートをさせていただくという取組を進めつつあるところがございますので、そういった中で事業者さんの活動により影響を与えられれば、おのずと御評価につながるのではないかと、私どもとしては考えてございます。以上です。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。末松先生、よろしいでしょうか。

【末松専門委員】 御説明ありがとうございます。今出ていたんですけれども、黄色で入っているところなんですけれども、ここの部分は確かにJAXAの頑張りというのはあるんですけれども、それ以上に受託機関の頑張りというものが含まれているのではないかと。純然なるJAXAさんの頑張りとしてはその前に書いてある支援の中身、件数ではなくて中身なのではないかというところで、JAXAさんがどんな支援をなさるのかというようなどころに対して、ひとつ指標を置いていただきたいと思いますと思うのと、あともう一つは、同じようにこういうふうな宇宙戦略費ではないんですけれどもB5G基金なんかでも一番問題になったのは配分です。応募のタイミングと、それから実際に契約の時期、これが非常に遅れてしまって結構問題になっていた時代があると思います。ここら辺が順調に立ち上がるの

かどうかというところを、ちゃんと評価をできるようにしていただきたいと思っております。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございました。よろしいでしょうか、末松先生。

【末松専門委員】 はい。まずここはこれで。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。

私もこのところ、追加で大変申し訳ないんですけども、これはコメントになりますが、事後評価と書いてあるので結構なんだと思うんですけども、ある程度大きなお金を入れるということもあるので、いわゆる研究のアウトプットだけではなくて、宇宙なので時間がかかると思うんですけども、いわゆるアウトカムというところも意識して、いろいろプロジェクトの選定とかをやっていたらと思いました。

それでは、ほかにございますでしょうか。小紫先生、お願いします。

【小紫専門委員】 さっきの宇宙戦略基金の活用に関して私は、これは新しい項目ですのでどうしていくべきかというのは大事だと思います。まず宇宙基金の活用というのがJAXAさんの予算や業務の拡大のためではないというところをうまく書き込んでいただくいいのではないかなと思うんですけども、そういった意味で民間事業者の達成度がイコールJAXAさんの達成度となるような評価ではなくて、先ほどあったようにどのようなサポートが行われたかとか、ステージゲートの評価が低いものに対してどんな対応をしたかとか、達成度がイコールにならないようなモニタリング指標を考えられるといいと思います。私からは以上です。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。これは事務局さん、御意見がもしあればお願いできればと思いますが。

【上野衛星開発推進官】 先生方、ありがとうございました。御指摘、ごもっともかと思っておりますので、4府省と相談して検討してまいりたいと思っております。ありがとうございます。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。小紫先先生、よろしいですか。

【小紫専門委員】 結構です。

【梅比良部会長】 それでは、今手が挙がっている小塚先生、お願いできますでしょうか。

【小塚専門委員】 小塚です。私も宇宙戦略基金の部分で、先生方とも重複しているので簡潔に申し上げますが、JAXAの役割について一定の考え方があれば、評価指標だけではなくて中長期目標のほうにもう少し具体的に書き込んでいただきたい。単に結節点とか中心的に貢献というだけでは読み取りづらいと思います。他方でここは政府の方針

決定、総務省も含めてですけれども、そしてJAXAが執行機関、そして受託する事業者と、それぞれ役割がありまして、それがやや外からは分かりにくくなるようなところもありますので、JAXAの役割は何なのかということは中長期目標にも明確に書いていただければと思った次第です。以上です。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。これについても、総務省から御意見いただけますか。

【上野衛星開発推進官】 目標のほうにも今のような少し抽象的な形ではなくて、もう少しJAXAの役割が分かるようになるように検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。それでは御相談いただいて少し修正なり、あとモニタリング指標とか評価資料のほうも少し御検討いただければと思います。

それでは、続きまして藤本先生、お願いできますでしょうか。

【藤本専門委員】 藤本です。戦略基金の話と少し違うのですが、よろしいでしょうか。

【梅比良部会長】 大丈夫です。

【藤本専門委員】 今表示されている資料の5.4の、情報セキュリティの確保のところですが、今後情報セキュリティの取組はますます重要度を増してくると思います。そういった中でモニタリング指標のところにサイバーセキュリティ研修の受講率が挙げられているのですが、サイバーセキュリティ確保のためにはマネジメントの関与が重要であるということが今しきりに言われているところです。

1点お聞きしたいのは、研修というのはトップのマネジメントから含めて全員を対象として受講していただくというようなイメージ、これまでどうやっていたか全部レビューしていないのですが、そういう話も含めて今後どういう形でモニタリングしていくのかといった点と、研修の内容として技術的な知識だけではなくてマネジメントに関する知識についての研修なども含めていくことを考えておられるのかどうかということをお聞きしたいと思いました。

【梅比良部会長】 ありがとうございます。それでは、これはJAXAさんから現状とか今後のお考えについてお聞きできればと思います。その後、事務局さんからも少し御意見があればと思いますが、JAXAからお願いできますでしょうか。

【JAXA（三保）】 JAXAからお答えをさせていただきます。まず現状といいますかこれまでにしましては、情報セキュリティ研修という名前を使っておりましたけれど

も、職員を対象に定期的にそういった研修を行いまして、受講率等々もウォッチしており、また受講が遅れている者に対するサポートなども行ってまいりました。その中には基幹職向けとか一般職員向けというような分け方もしていることもございますし、その内容についても毎年定期的に改めてという形でやってきていたというのは事実でございます。

また、御指摘のありましたマネジメントに関するところ、あるいはマネジメント層に関するところにつきましては、近年という形になりますけれども、外部からの専門家を講師としてお招きをいたしまして、役員を含むマネジメント、高いレベルのマネジメントを行う者も含めたこういった分野の状況に関する研修なども行うようになりました。ますます状況は厳しくなっているというのは認識してございますので、こういった形で社内の意識を高め、知識を定着させるのかといったような活動については、さらに改善を進めていく必要があると思っております、情報セキュリティ委員会という常設の組織も中に持っておりますので、その中でこういった活動を進めて定着していこうと、JAXAとしては考えてございます。御説明、以上でございます。

【梅比良部会長】 ありがとうございます。事務局さんからもし追加で何かございましたら、お願いできますか。

【上野衛星開発推進官】 ありがとうございます。今、JAXAから御説明ありましたが、現状のやり方と今後のやり方、それからマネジメントの部分の研修をどうフォローアップしていくかということかと思っておりますので、ここの記載、モニタリングの指標の仕方としてこれより深掘りできるか、もう少し詳しく書けるかも含めて検討したいと思っております。

【梅比良部会長】 分かりました。よろしく願いいたします。藤本先生、よろしいでしょうか。

【藤本専門委員】 はい。引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。それでは生越先生、お願いできますか。

【生越専門委員】 今回、一番分かりやすい事例を挙げさせていただきたいんですが、宇宙基本計画における目標として、1番目の宇宙安全保障の確保ってあるじゃないですか。近年、いろいろな国が宇宙軍、航空宇宙軍というのを作り始めているときに、今回の評価指標を見ると資料の29-3の1.1の宇宙安全保障への貢献というところなんですけど、どんなものをやればそのときの宇宙の安全保障につながるかという、こういう方針はJAXAさんだけで立てられるものでももちろんないから、だから安全保障関係機関との連携・協力状況というのが入っているんだと思うんですけども、ただ多分どっちかというと航空自衛

隊のほうからこんなふうなものをやっってくださいとかいうのが来るんだと勝手に想像しています。

そういうふうを考えますと、今回特にこの4つの目標、例えば2番目だと災害庁ができれば災害庁からのリクエストがあったりとか、方針を立てるのと実際に何をやるのという部署の関係が明確でないと、JAXAさんがすごくやりにくいのではないかと思うんですけども、そういったところはどのようなフローで方向性を考え、具体的な政策を考えて、この評価指標に載せると考えていらっしゃるか、説明していただければありがたいです。以上です。

【梅比良部会長】 これは事務局さん、お願いできますか。難しい話かと思いますが。

【扇課長】 総務省、扇でございます。

【梅比良部会長】 ありがとうございます。

【扇課長】 今の生越先生の御質問、ごもっとな部分かと思っております。一方で宇宙安全保障につきましては、こちらはまさに安全保障担当部局、防衛省をはじめそういう宇宙安全保障担当の部局のほうでどういった構想を持って、それに対してどうJAXAさんがそこに貢献できていくかということだと思っておりますので、あとは状況というもの今後7年間あるうちでいろいろ変化する部分だとは思っております。ですので、基本的には安保当局の掲げるものに対してどう貢献していくかという形での目標設定であったり、あるいは評価軸の設定という部分にはならざるを得ないとは思っておりますので、そういった中で今回の評価指標で書いてあるような安全保障関係機関等との連携・協力状況であったりとか、実際に業務として受託業務の実施状況というような評価手法を入れるという形にならざるを得ないとは思っていたところでございます。うまくお答えできているか若干自信ないところではございますけれども、以上でございます。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。これは、もしJAXAさんから追加、補足があれば。

【JAXA（三保）】 JAXAでございます。私どもからどうこうということではあまりないのですが、実際どのような形で進めさせていただいているかということの例示を申し上げるのが少し補足になるかと思いますが、安全保障関係機関等との連携・協力状況ということに関しましては、技術的にどのようなことが宇宙アセットを使うと実現可能なのかといった知識、経験はJAXA側にはありますが、逆に政策的な観点、非常に広い意味の上位の概念については、私どもはあまり得意とはしていないというところがございます。

逆に政府機関の皆様からは非常に大きな観点でのニーズ、あるいは時間軸といったものは十分にお詳しいところ、宇宙アセットそのものの中身については必ずしも技術的観点からは微に入り細を入りというところはあまりお得意ではいらっしゃらないというところで、適時適切にいろいろな会話をそれぞれの機関さんともあれば、省庁の方々ともさせていただいておまして、その中でそういうことができるのであればこういうことはどうだろうといったようなやり取りをさせていただいているというのが、この連携・協力状況の少し下位のところの実態としてはございます。

そういった中で新しいミッション、こういったものはどうかというようなものが形になって、例えば受託の事業というような形で見えてくるというような、少し時間的な流れも含めてそのようなやり取りをさせていただいているというところがございます。したがって、この連携・協力状況というのも今後、次期の7年間のところで御評価をいただく際にも、どのようなやり取りを繰り返しているかというようなこともうまく御説明をさせていただきながら、我々として、JAXAとして最大限、日本国のために貢献ができているという姿を見ていただく、あるいは不足があれば御指摘をいただくといったような会話ができいくといいと思っております。失礼ながら、補足をさせていただきました。以上でございます。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。この中には具体的に入っていないと思えますけれども、それで大きな流れがあるようだったらこの基本計画なり、全体の中長期の計画を見直すという話につながっていくんだろうと想像しておりました。

それでは続きまして、篠永先生、お願いできますか。

【篠永専門委員】 1.1から1.6のモニタリング指標について質問させていただきます。そこに書いているんですけども、1.1から1.5ではプロジェクトの総数がまず書いてあって、1.1から1.6では予算、あるいはスケジュール変更を行ったプロジェクトの件数ということで、ほぼ共通した指標が最初に書かれているんですけども、これの意図としてはどういった意図でこれが入っているのでしょうか。

【梅比良部会長】 これは事務局さん、お願いできますか。

【上野衛星開発推進官】 モニタリング指標といたしましてどのような指標がいいかというのを検討する中で、プロジェクトの数というのが一番分かりやすい指標だと考えました。

【梅比良部会長】 篠永先生、よろしいですか。

【篠永専門委員】 意図としては、プロジェクト変更の件数が書かれているのが気になったんですけども、研究開発ですので内的、外的要因によっていろいろな状況変化に柔軟に対応するというのはよくあることだと思うんですけども、モニタリング指標で総数に対して計画変更数が入っているのは計画変更についてどのように考えられているのかというのが質問の意図でした。計画変更することをネガティブに捉えないほうがよろしいのではないかというのが個人的な意見なんですけれども。

【梅比良部会長】 これは事務局、何か御意見ございますか。私、個人的には多ければ多いとか、変更がいっぱいあったらいいという話ではなくて、事実としてどうなっていたかというのを認識するためにモニタリング指標があるんだろうと理解しておりましたが、もし御意見があれば。

【扇課長】 総務省、扇でございます。私の考えも梅比良先生と同じでして、モニタリング指標、この1件だけを設定しているのであれば確かにこれにプラスの評価なりマイナスの評価ということが入ってくると思うんですけども、それぞれのモニタリング指標においては、それこそ1.1であれば安全保障機関等との連携・協力状況であったりとか、あるいは1.2の部分であれば国際的ベンチマークに照らした研究開発の成果といったような、様々なモニタリング指標が入っておりますので、その中のまずベースとしてプロジェクトの総数、それから変更があった件数というのをまずファクトとして押さえておくということでこれを入れていると考えておまして、そういった意味でこれが多かったからマイナスになるとか、少なければプラスになるとか、必ずしもそういったことにとらわれなくても大丈夫かとは思っております。むしろ評価の指標という意味で言えば、評価の観点なり評価の考え方としては評価軸なり評価指標というのもありますので、あくまでワンオブゼムと見ていただければよろしいかと思っております。以上です。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。篠永先生、よろしいでしょうか。

【篠永専門委員】 よく理解できました。ファクトベースの数字ということで理解しました。ありがとうございます。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。それでは末松先生、追加の質問かと思いますが、よろしくをお願いします。

【末松専門委員】 追加の質問です。10 ページの1-2のところなんですけれども、地球観測・通信・測位という項目があります。ここの部分の通信というのは、地球というのは観測だけではなくて通信・測位にも全部かかってくる言葉なのでしょうか。

【梅比良部会長】 事務局さん、お願いできますか。

【上野衛星開発推進官】 この通信は、フルデジタル通信ペイロードなどを念頭に置いております。

【末松専門委員】 ということですね。文章を見ると、いつも思っていたんですけども、衛星通信に大体、特化していて、ここの文章でも10ページの一番最後の文章で「衛星通信については」となっている。今までは衛星通信だけでよかったんだと思うんですが、宇宙基本法のほうを見てみると次世代通信サービスという名前に変わっているんです。なおかつアルテミス計画等々の月面での通信確保という話も入ってきているので、ここの部分、今までの枠組みは衛星通信だったんですけども、今後はそういう月面探査を含めた通信の確保みたいなのところにもうちょっと膨らまして書いてもらうのもいいのではないかと。それが宇宙基本法等との整合性があるという方向にいかないかと思って質問しました。

【梅比良部会長】 事務局さん、いかがでしょうか。

【上野衛星開発推進官】 ありがとうございます。「通信」を「次世代通信サービス」に置き換えるようなイメージでしょうか。

【末松専門委員】 そんな形でいいのではないですかね。あと中身の一部に、ほかのところでアルテミス計画に対しての周波数確保みたいな話を書いてあったので、それに対する研究開発があるのかと思って、足していただけるといいかと思って見ておりました。あと、今衛星通信の話が書いてありますけれども、ちょっと気になったのが、衛星通信については成果を輩出するというふうな形で書いてあるんですけども、ほかのところは研究開発の成果をとというふうに書いていらっしゃるようですので、これだけだと研究開発をしないで単に成果を出すみたいに見えるので、「研究開発の」と入れていただけるといいかと思いました。細かいところで申し訳ありませんけれども、どうぞよろしくお願ひします。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。それでは、事務局さんはただいまのコメントを踏まえて少し御検討いただければと思います。よろしいでしょうか。

【上野衛星開発推進官】 はい。検討いたしたいと存じます。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。それでは小紫先生、お願いいたします。

【小紫専門委員】 すみません、もう一つだけコメントさせていただきたいんですけども、第4期、前期の目標として民間との共創というのが一つの大きな目標だったかと思うんですけども、第5期は一步進んで民間事業者への業務移管をもっと積極的に目標に書き込むのはいかがでしょうか、可能でしょうか。

【梅比良部会長】 多分、分野によるかと思いますが、事務局さんお願いできますでしょうか。

【上野衛星開発推進官】 基本、1章の研究プロジェクト及び研究開発の実施のところの各項目の中で記載しているところでございます。

【小紫専門委員】 基幹ロケットについては書いてありますね。

【上野衛星開発推進官】 技術移転を積極的に進めるというのを分野ごとに記載しております。

【小紫専門委員】 そうですね。技術移管というよりもJAXAさんの業務をもう移してしまうと。業務は民間に任せるというか、ただ技術を渡すだけではなくて民間の事業としてやっていただくというところ、基幹ロケットと同じように積極的に、今度宇宙基金もありますし、この中期目標でそこを掲げることができるというのではないかと思います。

【上野衛星開発推進官】 ありがとうございます。項目ごとにいま一度、今いただいた御指摘を踏まえてどこまで書けるか検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。

【小紫専門委員】 よろしくをお願いします。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。それでは少し、できるところからだと思いますが、何でもかんでも移せばいいというわけでもないと思うので、その辺のところをもう少し前向きというか、もう少し書き込めるなら御検討いただければと思います。

ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

それでは私から少しよろしいでしょうか。前から少し議論になっていた話で、受託業務のところの評価で情報収集衛星のようなものはなかなか評価しにくいというお話が何回も出ていたと理解しているんですけども、この中で書き込めるようなものでもないのかもしれないけれども、この辺についてどう今後改善していったらいいのかなのか、御意見をいただければと思うんですが。

【上野衛星開発推進官】 ありがとうございます。情報収集衛星の件は過去の部会で御指摘いただいていたことだと思っております。現状、1.1の宇宙安全保障への貢献のところに記載しておりますが、ここについては、関係省庁と相談する中では、JAXAともう少し相談をして、提供できる情報を充実させていく方向で検討していきたいと思っております。JAXAのほうで補足があればお願いできればと思います。

【梅比良部会長】 JAXAさん、いかがでしょうか。

【JAXA（三保）】 JAXAでございます。これまでの数年間の御評価の際にも、で

きる限りの情報をとということで御指摘を頂戴しておりまして、過去4～5年前に比べますと最大限努力して情報を出させていただいたような次第ではございますが、何分受託業務という性格上、JAXAの自由になる情報には限界が、それぞれの受託事業の性格にもよりますけれども、今言及いただきましたような情報収集衛星事業の場合には政府機関殿の御意向に沿っている範囲の情報ということにならざるを得ないということもありまして、できる限りの努力、工夫は今後もお約束をさせていただきたいと思っておりますが、飛躍的な情報量の拡大というのはなかなかJAXAだけではなし得ないというところだけは、背景として御理解をいただけましたらありがたいです。どうぞよろしく願いいたします。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。一応理解はしているつもりですが、御提案というか、昨今受託業務というとやはり受託した側のほうがどれだけ問題ないというか、よかったというふうな、目標がちゃんと達成されたというのが大事かと思うので、もし可能であれば受託側のほうの評価がどうだったのかというのは、もし開示していただけるのであれば一番ありがたいと思っております。もし可能であれば御検討いただければと思います。JAXAさん、お願いできますか。

【JAXA（三保）】 JAXAでございます。JAXAとしましては契約の範囲の中でお願いをさせていただいて、何らかのそういった御評価といいますか、コメントといったものを頂戴する努力はしていきたいと思っておりますが、何分お相手のあることでございまして、こういった委員会のほうからもそのような御指導をとったことがありますと、JAXAとしても努力のなんというんですか、役に立たせていただいといますか、助けていただけるかと思っております。なかなか言いづらいところで、恐縮でございます。

【梅比良部会長】 難しい話だとよく理解しておりますので、もし可能であれば少し御検討いただければと思います。

ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、もしなければ、少し予定より早く終われるようではございますけれども、議題2のその他に移らせていただきたいと思います。事務局から説明、お願いできますでしょうか。

(2) その他

【菅野専門職】 本日、提出いただきました第5期中長期目標案、政策体系図案、評価事項及び関連指標案に対する意見につきまして、本日の議論を踏まえた追加事項がありまし

たら、あらかじめ配付してあります御意見記入シートに御記入いただきまして、11月29日18時までに御提出をお願いいたします。なお、あらかじめお送りいただいた委員、専門委員におかれましては、さらに追加、追記部分がありましたら、あらかじめ提出していただいたものに対してさらに追記していただいて提出いただくよう、よろしくをお願いいたします。

なお、既に御案内のとおり、次回のJAXA部会につきましては12月23日月曜日13時からの予定となっております。会議の詳細につきましては別途御連絡させていただきますので、御出席のほど、どうぞよろしくをお願いいたします。本日はありがとうございました。以上でございます。

閉 会

【梅比良部会長】 どうもありがとうございました。以上で本日の議題は終了となりますけれども、委員の皆様から何かございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、以上をもちまして本日のJAXA部会は閉会とさせていただきますと思います。

本日はどうも、御出席いただきまして、ありがとうございました。

(以上)